資料　4

○通学区域の現状と問題点

（現状）少子化の進行により児童生徒の総数は減少しているものの、地域的な偏在により学校規模の差が拡大している。

（問題点）
- 大規模校では、今後も児童生徒数の増加が見込まれ、教室数や運動場の面積の不足など教育環境の悪化を招く恐れがある。
- 小規模校では、児童数の減少が進み、教育活動における弊害が懸念される。
- 教育条件や教育環境に不均衡が生じる。

（現状）通学区域に大きな変更がない中、空港開港に向けた都市基盤整備により幅員が広く交通量の多い道路が建設されるなど、児童の登下校時の環境は以前に比べ大きく変化している。

（問題点）
- 鉄道や交通量の多い幹線道路の横断により、登下校時の危険性が高まっている。

（現状）通っている学校より隣接する通学区域の学校の方が明らかに近い状況の地域がある。

（問題点）
- より近い学校があるにもかかわらず、遠方の学校に通学することによる、児童の登下校時の安全性の低下と身体的負担がある。

（現状）中学校新設に伴う中学校通学区域の変更により、小・中学校の通学区域の接続性が悪化している。

（問題点）
- ひとつの小学校から複数の中学校への進学は、生徒にとって、中学進学に伴う学習環境の変化に加え、心理的な負担を強いる恐れがある。